

環境学の

授業拝見!

理学、工学、人文社会科学、異なる専門領域の学生
とともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。

【今回の授業】環境学特別講義
再生可能エネルギーと社会イノベーション

本巢 芽美
社会環境学専攻 特任准教授

脱炭素社会実現の重要な柱となる再生可能エネルギー。この授業は、さまざまな立場の13人の専門家をゲストスピーカーとして招き、再生可能エネルギーと地域の共生について学びます。「再生可能エネルギーは、特定の学問だけで教えることはできない分野横断的な問題です。それを、この授業の主眼でもある“地域共生”、地域をいかに元気にするかという視点で学んでもらうには、実際のプロジェクトに携わる方に来ていただくのが一番」と、本巢先生。毎回のゲストは本巢先生と丸山康司先生（社会環境学専攻）の人脈によるもの。日本のエネルギー政策を語る環境省、再生可能エネルギー等導入について促進条例を作った宮城県、市民参加の風力発電事業に取り組む北海道グリーンファンドなど、日本の再生可能エネルギーの最前線を多角的に知ることができます。

毎回講義の最後にはゲストからの「お題」が。たとえば「名大生参加型の再エネをつくるなら何がいいか?」「企業の再エネ調達を活性化させるにはどうしたらいいか?」。学生は自分の意見を提出することで、再生可能エネルギーをどう進めるか、具体的に考えることになります。「名大生参加型の再エネ」には、高低差のある名大の地形を生かした発電など、ユニークなアイデアが出てきたとか。

受講するのは、バックボンの異なる環境学研究科の3専攻の学生。半数を占める留学生も日本語で学んでいます。「ただ再生可能エネルギーの電力量を伸ばそうではなく、それが地域づくりに役立つことが大切」と本巢先生。この学びが、それぞれの研究に生かされて、新しい社会変化を促していくことを期待しています。



この日のゲストは、生活クラブ生活協同組合の半澤彰浩氏。生活クラブのエネルギー政策と「生活クラブでんき」を通じた地域づくりの取り組みを紹介。

北村 悠さん kitamura Yu
地球環境科学専攻
博士前期課程1年



授業では、地域脱炭素に携わるさまざまなステークホルダーの方々の話をうかがうことができます。それぞれの立場から地域脱炭素に向けた取り組みについてうかがう中で、「地域と共生する再エネ」の重要性に気づかされました。地域の電力と経済は地域の企業、住民で回していくという前提の下で、再エネで地域の新たな価値を見出していくことで、持続可能なエネルギー供給を成し遂げることができると感じています。私は現在、湖沼の貧酸素水塊形成やメタンの消費過程に関する研究を行っており、温室効果ガス排出の自然影響や由来にも目を向けています。今後は、こうした科学的知見を持って、さまざまな地域脱炭素の制度設計や環境行政の在り方を考えていきたいと思っています。

久田 幸輝さん Hisada Kohki
都市環境学専攻
博士前期課程1年



この授業は、行政、発電・小売電気事業者、金融機関、市民団体などの外部講師によるオムニバス形式の講義です。再エネの社会実装に実際に取り組む方々から、各々の視点や成功・失敗事例を紹介していただくことで、地域と共生した再エネ実装について具体的かつ実践的な理解を深めることができます。地域共生と一口に言っても、行政による制度設計や地域住民との共同出資、電気料金を地域基金に充てるなど、多様なアプローチがあることを学びました。研究では、エネルギー分野の脱炭素化に向けて経済合理的な再エネ技術構成などを計算しているので、それらを実際に社会実装するにあたって考えるべき課題について学びの多い講義です。